

大卒サッカー選手の研究

A study of college graduate football player

1K04A102-9

坂本 亮太

指導教員

主査 堀野博幸先生

副査 石井昌幸先生

目的

本研究では、現役の大卒選手、大卒の J リーガーがその他の J リーガーよりも現役継続年数が長く、セカンドキャリアに関する意識も高いという仮説をたて、それを立証するために研究を行った。

実際に現場での声や世間では大卒選手の優位性は取り上げられ始めているが、その意見に具体的な数値による根拠や明確性は乏しいといえる。

そこで本研究ではサッカー関係者、選手、新入団予定選手へのインタビューで優位性を再度考えた上で、J リーガーのデータを調べることによりインタビューで考えうる大学サッカーの優位性を数値的に裏づけ、今後の日本サッカー界、ひいては本研究を通して、サッカー以外のスポーツにおいても大卒選手への注目が集まりより多くの優秀な大卒選手が輩出されることを目的とする。

方法

研究目的を達成するために以下の二つの方法で研究を行った。

1. インタビュー

まず、J リーグキャリアサポートセンター 職員の方にインタビューを行い、大卒で現役の J リーガーとして活躍する、A 選手、B 選手、現在大学生で来季の J クラブへの入団の決定している、C 選手、D 選手の 5 名へのインタビューを行った。八田氏には現役継続年数の長い選手の特色や、セカンドキャリア獲得のために選手に必要とされる資質を聞き、それを元に選手へそれらに関するインタビューを行い、大卒選手がそれらの要素を持ちえているかを調べた。

2. J リーガーデータ集計

J リーグ公式サイト「試合記録」の各年度のチーム毎のデータを Excel に入力しグラフ・図を作成。※右項参照

Excel ファイルを元に、各年度の J リーガーの総数、その中に含まれる 27 歳以上の選手の総数、22 歳～27 歳未満の選手の総数を出し、その範囲における大卒選手とその他の選手の比率を比較した。この範囲で年齢を区切った理由としては、CSC が出すデータにより J リーガーの引退年齢の平均が 26 歳であり、27 歳を越えてもなお現役を続行する選手はキャリアが長いと証明できる。

結果

CSC 職員の意見を元に行った選手へのインタビューでは、全ての選手が大学サッカーを選択したことを「良かった」と述べ、また、大学サッカーが優位であると考えられる要素も各選手へのインタビューへの回答の共通点から得る事が出来た。具体的には「環境の変化に適応する順応性・柔軟性」や友人の就職活動を見た経験による、職業的価値観を持ちえていることなど、様々なものが挙げられる。

そして、インタビュー結果を数値的に裏付けるために行われたデータの集計及び検証でも、22 歳以上 27 歳未満における大卒選手の比率より、27 歳以上における大卒選手の比率がいずれの年度においても高いという結果が得られ、数値的にも大卒選手の現役継続年数がその他の選手より長く、大学生活の重要性が明らかとなった。

考察

研究結果より、大卒選手のその他の選手との比較により優位性は見ることが出来た。これは大学生活における挫折や環境の変化などのサッカーに関する経験と、友人の就職活動を見るといったサッカー以外での経験が、人間性や社会性を高め、結果的にプロとしての現役継続年数が長くなることに繋がると言える。この優位性を今後、より多くの選手、およびその選手を指導する立場に当たる人々、親やサッカー関係者に理解して貰い、社会的に大学サッカーの価値が高まり、更なる発展を遂げ、それが結果的に日本サッカーの発展に繋がる。また、この大学サッカーの再活性、発展に伴い、大学スポーツへの注目が高くなり、大学から人間性・社会性・見識を兼ね備えてスポーツ選手が多く世の中に排出されることにより、日本におけるスポーツの価値の向上に繋がることを期待する。

